

第5回 JCHO宇和島病院地域協議会 議事概要

【日時】平成29年7月18日（火）18:30～19:30

【場所】JCHO宇和島病院 3階講堂西

- 【議題】
1. 中期目標、中期計画（進捗状況等）について
 2. 退職後の健康診断推進のためのシステム構築
～シニア健康診断～
 3. 発表『ろう患者と向き合って！ ～見えない障害を持つ人～』
 4. 意見交換
 5. その他

【出席者】奥田 喜久美（利用者）

梶原 伸介（市立宇和島病院院長）

荃田 仁志（くきた内科クリニック院長）

谷 忠夫（利用者）

友松 孝（宇和島医師会長）

廣瀬 浩美（宇和島保健所長）

毛利 正光（宇和島市保険健康課長）

（以上：五十音順）

渡部 昌平（JCHO宇和島病院院長）

矢野 達哉（JCHO宇和島病院附属老健施設長・副院長）

佐々木 修（JCHO宇和島病院副院長）

富永 康浩（JCHO宇和島病院副院長）

松岡 君代（JCHO宇和島病院総看護師長）

斧 信之（JCHO宇和島病院事務長）

相山 美千代（JCHO宇和島病院看護師）

柴田 秀信（JCHO宇和島病院健診管理課長補佐）

見谷 榮美（JCHO宇和島病院看護師（発表者））

【概要】

1. 中期目標、中期計画（進捗状況等）について

経営状況（収支、病院の1日平均患者数・患者1人1日当たり診療収入、附属老健の1日平均入所者数・通所者数）、救急車による受入患者数、紹介率・逆紹介率について説明を行った。

意見

(外部委員) 救急患者は当番曜日である木曜日が増えているのか、全体的に増えているのか。

(内部委員) 全体的に増えています。特に木曜日は増えています。

(外部委員) 紹介率、逆紹介率はJCHO全体で同じような数字なのか、病院によって違うのか。

(内部委員) 病院によって全く違います。

2. 退職後の健康診断推進のためのシステム構築 ～シニア健康診断～ (資料)

シニア健康診断について、背景、目的・意義、現状調査、課題抽出、システム構築、内容等について説明を行った。

意見

(外部委員) 75歳以上の後期高齢の方はどうなりますか。

(内部委員) 75歳以上の方でも受けることは可能です。胃がん検診、特定健診も受けることは可能です。この制度を使うことはできますが、今のところメインは61歳～74歳の方となっています。

(内部委員) 企画して、まだ始まったばかりで申込者は3人です。ぜひ1つの制度として定着するようこれからも頑張っていきたいと思います。

(外部委員) 65歳以上の方は国保に移るイメージがありますが、協会けんぽの加入者の方が60歳以上でも多い理由はどういったことでしょうか。

(内部委員) 60歳定年、2年間任意継続を利用して国保というのがありますが、65歳、75歳以上の方でも協会けんぽ被保険者本人はいます。当院は社会保険病院時代から協会けんぽ(旧、政府管掌健康保険)の流れがあり、7割が協会けんぽの健診です。60歳や65歳定年でも引き続き退職せず、働いている方がいます。健診の数としては6割、7割は協会けんぽの被保険者本人が圧倒的に多いというのが事実です。ただ、協会けんぽは、中小企業の会社が多いので、60歳、65歳で退職ではなく70歳過ぎても被保険者本人という方がおられます。

(外部委員) 健診項目一覧の腹部検査とはエコーですか。

(内部委員) はい、そうです。

(外部委員) 受ける人へのアナウンスが一番のカギだと思う。会社勤めの方は会社の命令で受診しますが、退職した人へのアナウンスをいかに行うか、最初の1回目をいかにしてアナウンスして知ってもらうかが大事である。

(内部委員) 現在、検討中です。受診勧奨はしましたが、それ以外にも、もっと広報しないといけないとっていて、どのような方法で行うか検討中です。

3. 発表『ろう患者と向き合って ～見えない障害を持つ人～』

「院内手話学習会」の活動状況、事例紹介を行った。

意見

(外部委員) 私、30数年間、聾学校に勤めていた者です。聴覚障害者に対して心温かい対応をして頂いて有難うございます。ただ、ここでよく間違えられるのは、聴覚障害者は手話でコミュニケーションしたら良いと一方的に思われていることです。どういうコミュニケーションをするかを決めるのは、我々ではなく、彼らである。聴覚障害者ごとに、コミュニケーションのやり方の選択がある。例えば、口の動きを見て(読話)、筆談、補聴器を付けている方はチョット大きい声で話してあげると良く分かるなどです。聴覚障害者でも様々な障害のタイプがあるので、その対応をしていかないと、聴覚障害者だから手話をすれば良いと狭く考えると、対応を間違えることになる。そこらを広げてもらいたいと思います。

4. 意見交換

(外部委員) CTをお願いした返事(所見)が、以前は当日か翌日にFAXでもらえたが、最近は3~4日かかる時がある。できれば次の日には返事をいただきたい。

(内部委員) 愛媛大学の支援センターに依頼をしている場合があり、特に週末などは読影の時間がかかる場合があります。

(内部委員) 以前は、放射線科の常勤医が居たので、ほぼリアルタイムで我々も所見を聞くこともできるし、地域連携を通してCT依頼があっても所見をお届けできていましたが、利用するシステムが変わったためご迷惑をお掛けしています。報告は出来次第対応することは勿論、常勤医師に来ていただけるよう、愛媛大学にはお願いに行っており、今後も引き続き依頼していきます。

(外部委員) 木曜日の救急体制の問題点等はないですか。

(内部委員) 当院は、医師の分布が整形外科 5 人、外科 2 人、内科 3 人で整形と内科系（外科・内科）のペアで対応しています。H29 年 1 月から輪番制がスタートし、当初は当番曜日に 20 人程度来るのではないかと予想していたが、10 人前後が準夜帯から深夜帯にかけて来ている。

(外部委員) 夜間救急全体が減っている。

(外部委員) 市民の自覚が出てきたのではないかな。

5. その他

(内部委員) 当院の実情について、医師数が医療法施行規則で定める標準数を満たしていない状態であり、その状況に変わりはありません。JCHO グループで改善しようということで、7 月から東京新宿メディカルセンターより 3 ヶ月間に限り、呼吸器内科の医師 1 人来ていただいています。臨床研修制度の受入実績もありませんでしたが、7 月から東京蒲田医療センターより 1 人来ていただいております。その後も高輪病院から 4 人来る予定です。状況的には一部ではありますが、少し改善しています。4 月からは愛媛大学より臨床研修医が 3 ヶ月間来ていただきました。医師の招聘にもやっと光が当たりかけたかなという所です。